

# 平成29年度「日本絹の里大学」受講生募集

今年も「日本絹の里大学」を開校します。  
絹や蚕について専門家がわかりやすく解説いたします。  
一緒に勉強しませんか！



## 《平成29年度カリキュラム》 (詳細は裏面をご覧ください)

期 日	講義題目	講 師
9/9(土)	①日本語方言にみる養蚕ことば	群馬県立女子大学 文学部 国文学科 准教授 新井 小枝子
	②写真でたどる稚蚕共同飼育所の人びと	ライター&フォトグラファー 大浦 佳代
9/23(土)	③日本で最初の器械製糸所をつくった 速水堅曹の活躍	速水堅曹研究会 代表 速水 美智子
	④成愛社と桐生織塾	桐生織塾 塾長 新井 求美
10/7(土)	⑤21世紀銘仙～奇跡の復活	21世紀銘仙プロジェクト 発起人 杉原 みち子 " 金井 珠代
	⑥カイコの品種改良技術の進歩と 新しい利用法の提案	群馬大学 大学院 理工学府 分子科学部門・教授 武田 茂樹
10/21(土)	⑦人形との出会い、ちりめんとの出会い	人形作家 竹本 京
	⑧人工飼料の実用化	日本絹の里 町田 順一
11/11(土)	⑨ブリュナエンジン製作プロセス 抗わず機を見て進み完成を期す	ブリュナエンジン製作委員会 委員長 (株野口製作所取締役会長)野口十九一
	⑩群馬県繊維産業の歴史と繊維工業試験 場	群馬県繊維工業試験場 研究調整官 笠原 力

- ◆会 場 日本絹の里 2階会議室
- ◆開講時間 13:30~15:50 (講義内容により時間が多少変わることがあります)
- ◆受講料 (教材費含む) 3,500円 (開校式当日に徴収いたします)  
・講義開催日は、特別展等の観覧料が受講生は無料になります。  
・受講年度の「日本絹の里紀要」を1冊差し上げます。
- ◆修了証書の授与 7講義以上出席された方には、日本絹の里館長から修了証書を授与いたします。
- ◆募集人数 先着50名
- ◆応募方法 往復ハガキの往信裏面に、①氏名(ふりがな)、②郵便番号、③住所、④年齢、  
⑤電話番号、返信表面に、ご自身の①郵便番号、②住所、③氏名を記入のうえ、  
日本絹の里「日本絹の里大学係」あてにお申し込みください。

**締切 平成29年8月25日(金) 必着**



日本絹の里  
NIPPON SILK CENTER

〒370-3511 群馬県高崎市金古町888-1  
TEL 027-360-6300 / FAX 027-360-6301

## 平成29年度「日本絹の里大学」カリキュラム

開催日	時 間	講 義 題 目	講 師	講 義 内 容
1 日目 9 / 9 (土)	13:30～13:40	開 校 式		
	13:40～14:40	日本語方言にみる養蚕ことば	群馬県立女子大学 文学部 国文学科 准教授 新井 小枝子	地域ごとに少しずつ違うすがたをみせる日本語。その中に養蚕ことばを位置づけ、養蚕が育んだ絹文化を考えます。平成22～27年度に行われた、全国方言調査の結果を報告します。
	14:50～15:50	写真でたどる稚蚕共同飼育所の人びと	ライター&フォトグラファー 大浦 佳代	昭和30年代から設けられた稚蚕共同飼育所は、技術革新だけでなく農家の結束も強めました。平成10年前後の前橋市芳賀3区の稚蚕飼育所と養蚕農家の、懐かしい姿を写真でたどります。
2 日目 9 / 23 (土)	13:30～14:30	日本で最初の器械製糸所をつくった速水堅曹の活躍	速水堅曹研究会 代表 速水 美智子	速水堅曹は、明治3年前橋に「藩営前橋製糸所」をつくり、明治5年開業の「官営富岡製糸所」の所長を長く務めました。黎明期の日本の製糸業を牽引した人物です。その仕事振りとは、製糸場で催された能に関係する趣味の謡についてもお話します。
	14:40～15:40	成愛社と桐生織塾	桐生織塾 塾長 新井 求美	桐生織塾は、明治13年に青木熊太郎・保蔵氏等によって設立された桐生で最初の工場制手工業による織物業「成愛社」の熊太郎氏旧宅を使用していました。この「成愛社」の概要と桐生織塾の28年間の活動を述べたいと思います
3 日目 10 / 7 (土)	13:30～14:30	21世紀銘仙～奇跡の復活	21世紀銘仙プロジェクト 発起人 杉原 みち子 〃 金井 珠代	伊勢崎銘仙の技法のひとつ「併用緋(へいようがすり)」。着尺の生産が途絶えて半世紀。100人の支援者によって、世界に羽ばたく「21世紀銘仙」が完成しました。平均年齢80歳、20人の職人が情熱をかため復活に挑んだ奇跡の一年をたどります。
	14:40～15:40	カイコの品種改良技術の進歩と新しい利用法の提案	群馬大学大学院理工学府分子科学部門 教授 武田 茂樹	カイコの品種改良において、21世紀になってから導入された新しい技術について紹介します。新技術によって何が可能になったか、新技術を生かしていくために何が必要か、について、ご紹介します。
4 日目 10 / 21 (土)	13:30～14:30	人形との出会い、ちりめんとの出会い	人形作家 竹本 京	人形を作り始めた頃の事から、現在の絹縮緬を使った「ちりめん創作人形」制作に至るまでのエピソードなどを、実物の人形や材料、写真を交えながらお話します。
	14:40～15:40	人工飼料の実用化	日本絹の里 町田 順一	蚕の人工飼料育は、稚蚕期のみ実用飼育がおこなわれ、現在、養蚕の中では欠かすことのできない技術となっています。この実用飼料の開発概要について紹介します。
5 日目 11 / 11 (土)	13:30～14:30	ブリュナエンジン製作プロセス 抗わず機を見て進み完成を期す	ブリュナエンジン製作委員会 委員長 (株式会社 野口製作所 取締役会長) 野口 十九一	富岡市の地域経済を支えているのは「モノづくり」の工業界であると自負しています。工業界のシンボルとなる物を作り存在感を示す狙いから取り組んだ事業をお話したいと思います。
	14:40～15:40	群馬県繊維産業の歴史と繊維工業試験場	群馬県繊維工業試験場 研究調整官 笠原 力	県内の天然素材や織物業の歴史、近年の織物産地の状況を紹介します。また、産地支援に取り組む試験場を紹介し、製品開発や技術開発の視点で現状を紹介します。
	15:50～16:00	閉 校 式		